

寺田縄日枝神社（6） 本殿に安置される棟札<sup>むならだ</sup>

（2021. 5）

棟札：建物の棟上げ又は改築の時、工事の由緒・年月・建築者・工匠などを記して棟木に打ち付ける札のことを言います。

日枝神社の本殿内には、神社に關係する棟札が3基あります。そこから神社本殿や社殿などの築年、修復年などを知ることができます。初めてご覧いただきます。日枝神社本殿が、文化財としてのご理解をいただきたく存じます。

● 元禄5年（1695）銘の棟札

（表）



諸佛救世者 住於大神通 為悦衆生故 現無量神力矣 別当東善寺  
奉造立山王大権現社頭壹宇所 導師吉祥院  
右 意趣者 天長地久御圓満郡内安穩諸人悦樂 歎白 郷中 諸檀那

(裏)



元禄五<sub>壬申</sub>曆五月拾六日

相州大住之郡 寺田繩村

馬渡村 大工 森伊兵衛

- 「造立奉 山王大権現社」： 山王大権現社を建立し捧げます。
- 年月日： 元禄五年五月拾六日

本殿内に安置されている年代の一番古い棟札です。この存在によって、建立の時が判明し、本殿の建築年代がわかります。

今から、326年前のことです。

この時点で本殿は、現在のように覆殿の内部に建造されていたかは、わかりません。

- 享保12年（1727）銘の棟札です。



(表)

具一切功德 慈眼視衆生 福聚海無量 是故應頂禮

□造立 本社修復拝殿屏殿覆殿 右者新造為 導師東善寺

意趣者 天下長久万民快樂 郷内安全諸祈願成就 如意満足祈 當村諸檀那 江岸叟 欽白

- 『本殿の修復、拝殿・屏殿・覆殿は新造のため』と読むことができます。「本殿は修理を施し、拝殿、屏殿（幣殿のことか）、覆殿を新たに建立した」
- 享保12年に、元禄5年造立の本殿を修復し、あわせて、幣殿、拝殿、覆殿を新たに建立し、現在見られる日枝神社の形式になりました。



(裏)

(消した後あり 判読不能)  
(消した後あり 判読不能)  
干□ 享保十二年<sub>未</sub>年四月吉辰  
大工  
當村  
次右衛門

○ 文字の墨がなぞられ、判読できません。一説では、汚れていたなので濡れ雑巾で拭いてしまった。とも聞きます。

○ 年代は享保12年(1727)、と読み取れます。今から294年前です。

- 享和元年（1801）銘の棟札です。



(表)

大権現	山王	具一切功德	慈眼視衆生	福聚海無量	是故應頂禮	別當	東善寺
	奉修覆						
	本社并拝殿屏殿覆殿						
		導師	吉祥院				
天下泰平國家安全	郷内安全五穀豊熟如意満足祈攸	當村諸檀那	欽白				

- 本殿をはじめ、拝殿、屏殿、覆殿の日枝神社の一体が修復されました。

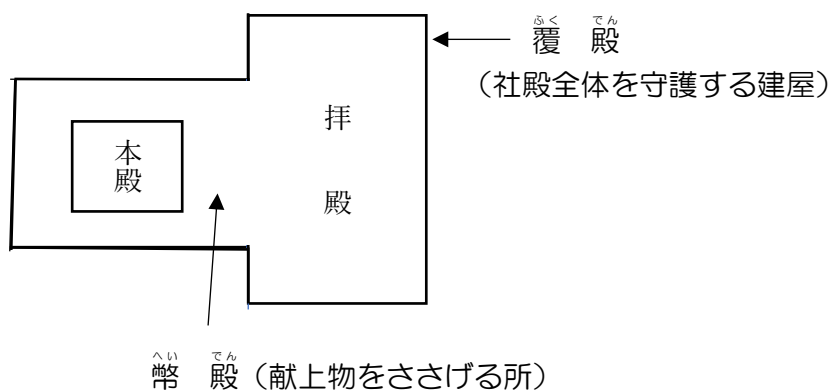


(裏)

相州大住郡寺田繩村  
享和元<sup>辛酉</sup>年四月 吉辰  
大工 上平塚村  
文八

○ 修復は享和元年、今から、220年前のことです。

- 納められている棟札から次のことが読み取れます。
- 本殿は、元禄5年（1695）に建立されました。  
今から326年前になります。
- 享和12年（1727）には、本殿の修復と、本殿を覆う（カバーする）覆殿の新設と合わせて、幣殿、拝殿を新たに設けました。想像するに、現在見られる社殿の形になったと思われます。
- 享和元年（1801）には、本殿、幣殿、拝殿、覆殿の修復が行われました。



- 現存する日枝神社の社殿は、今から220年前に修復された時の姿でしょうか。  
言い伝えでは、『文久2年（1862）の台風により境内の「大松」が倒れ、傷んだ社殿の修理にこの松が用材として使われた』とされています。  
確証は得られませんが、現在の壁板が当時の「松」だといわれます。



● 山王社（現・日枝神社）の年代考

これまで述べてきた山王社（現・日枝神社）について、諸資料から読み取れる年代を再度、整理してみます。

天正19（1591）年	2石の御朱印拝受（御朱印状）
延宝 2（1674）年	鐘楼、鐘を掛「新編相模国風土記稿」
元禄 5（1692）年	山王大権現社 造立（棟札）
享和12（1727）年	本社 修復 拝殿・幣殿・覆殿 新造（棟札）
享和 元（1801）年	本社・拝殿・幣殿・覆殿 修復（棟札）
天保10（1839）年	山王社の記述「相中留恩記略」完成
天保12（1841）年	山王社の記述「新編相模国風土記稿」完成
文久 2（1862）年	境内大松が台風により倒木、覆殿壁板に用材使用 「寺田縄日枝神社の歴史」（平成10年）
昭和17（1942）年	梵鐘 供出
昭和34（1959）年	鐘楼 台風により倒壊（礎石のみ現存）

● 現在私たちが参拝する社殿の姿は、文久2（1862）年の台風の後、修理された覆殿でしょうか、壁板には広く厚い用材が使用を見ることができます。

社殿の中には、日枝神社の社宝ともいえる、慶応3（1867）年銘の神輿が安置されています。「寺田縄日枝神社」は完了。次号は「日枝神社神輿」についてご案内いたします。